

こちら特報部

FAX 03 (3595) 6911 Eメール tokuho@chunichi.co.jp



国会議事堂前で、一橋大の授業料値上げに反対の声を上げる同大1年生の木村和貴さん=10月、東京・永田町で

国立大学で、授業料を値上げする動きが相次いでいる。来年4月からは所得が低い世帯を対象に進学を支援する制度が始まるが、学生の間では、支援から外れることでかえって負担増につながる懸念も強い。背景には、大学間の競争をあおってきた教育政策の問題が透けて見える。(中山岳)

「説明なく10万円超」

「学生、受験生、保護者に事前の説明がないまま、10万円を超える値上げをしようとしている」一橋大一年の木村和貴さん(こ)は十月下旬、東京・永田町の国会議事堂前で学生たちが開いた集会で、同大の授業料値上げに対する怒りを訴えた。同大は九月、二〇二〇年四月からの学費値上げを発表。入学者を対象に、現行の五十三万五千八百円から、六十四万二千九百六十円と、二割値上げする。大

「競争力」理由に交付金大幅減

によると、東京工業大と東京芸術大で四月に値上げしたのを皮切りに、一橋大、千葉大、東京医科歯科大も二〇年度から追従する。木村さんは「今後他大に広がる恐れがある」と心配する。学費減縮小恐れ 値上げに加え、国立大が生活の厳しい世帯の学生などを対象にする授業料の減免が、縮小される恐れも出ている。背景にあるのが、同年四月から導入される、低所得世帯の学生を対象にした新たな修学支援制度だ。この制度は、住民税が非課税となる年収約二百七十万円未満から約三百八十万円未満までの世帯が、年収に応じて三段階に分けられ、大学や専門学校などの入学金や授業料を減免されるほか、給付型奨学金も拡充する。財源は消費税増税分を充てる。一方、新制度は、これまで各国公立大が実施してきた授業料の減免より年収などの要件が厳しく、三年以上浪人して入学した学生も対象外になる。文科省の調査では、これ

国立大相次ぐ値上げ

学費支援狭まる対象

なぜ国立大で授業料の値上げが相次ぐのか。底流には、近年、国からの運営費交付金が大幅に削られて経営が厳しいことがある。国立大への運営費交付金は、二〇〇四年度の一兆二千四百十五億円から、一五年度は一兆九百四十五億円と千五百億円近く減った。青山学院大の申恵手教授(国際人権法)は「各大学は運営費交付金などを原資に、授業料の減免を実施している。交付金が削られた結果、値上げせざるを得ない学校が出てきている」と指摘する。こうした課題は私立大学にも当てはまるという。「国の私学助成も近年は増えておらず、各大学の学費は高くなる傾向だ」



参院議員会館の集いで、修学支援制度の問題点を話す東京大4年生の中野典さん(右)と、青山学院大の申恵手教授=15日、東京・永田町で

修学支援新制度 問題山積

厳しい年収要件 2万人援助失う恐れ

八十万円以上の所得世帯には支援がなく、貸与型奨学金があるだけだ。運営費交付金が削られて授業料減免枠が減り、各大学で世帯年収四百万、五百万円程度でこれまで減免対象になっていた学生が来年度以降は受けられなくなる恐れがある。申氏は「新制度には矛盾が多い」と批判する。

拙速導入見直しも議論を

「選択と集中」にせよ「国際競争力の強化」にせよ、はたまた現在、大きく話題になっている「大学入試改革」にせよ、格差の拡大、不公平の拡大しか招かない。つまり、政府・与党や財界の本音をひとことで表現したのが、「身の丈に合わせた頭張って」なのだろう。よーく分かった。(歩)

INKXEMO

「選択と集中」にせよ「国際競争力の強化」にせよ、はたまた現在、大きく話題になっている「大学入試改革」にせよ、格差の拡大、不公平の拡大しか招かない。つまり、政府・与党や財界の本音をひとことで表現したのが、「身の丈に合わせた頭張って」なのだろう。よーく分かった。(歩)

2017年9月、高等教育の無償化などを訴え、衆議院解散を表明した安倍首相=首相官邸で



厳しい年収要件 2万人援助失う恐れ

拙速導入見直しも議論を

「選択と集中」にせよ「国際競争力の強化」にせよ、はたまた現在、大きく話題になっている「大学入試改革」にせよ、格差の拡大、不公平の拡大しか招かない。つまり、政府・与党や財界の本音をひとことで表現したのが、「身の丈に合わせた頭張って」なのだろう。よーく分かった。(歩)